2018 9 vol.54

ヨコハマよみうり
Yokohama Yomiuri

■発　　行／横浜読売会
■発 行 日／毎月5日
■発行部数／40万部
■発行エリア／横浜市内全域
■制　　作／ヨコハマよみうり編集部
〒231-0023
横浜市中区山下町51-1
読売横浜ビル8F
http://yokohama-yomiuri.co.jp

巨人戦　音楽
演劇・舞台　落語
チケットのお求めは7面へ
限定特価、先行発売、お見逃しなく!

ヨコハマ想い vol.52

演出家・俳優
白井 晃さん
Akira Shirai

1957年生まれ。早稲田大学卒業後、'83年～'02年まで遊◉機械/全自動シアター主宰。劇団活動中よりその演出力が高く評価され、外部の演出も数多く手掛ける。現在は演出家として作品を発表する一方、俳優としても舞台・映像ともに活躍中。2014年4月、KAAT神奈川芸術劇場のアーティスティック・スーパーバイザー、2016年4月、同劇場の芸術監督に就任。第9回、第10回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。05年『偶然の音楽』にて平成17年度湯浅芳子賞(脚本部門)受賞。12年演出のまつもと市民オペラ『魔笛』にて第10回佐川吉男音楽賞受賞。

「泉鏡花の『自分は芸術の奴隷である』という言葉に感銘を受けて、『演劇の奴隷たれ』が座右の銘なんです」と白井晃さん。横浜は自分が先鋭的な表現に出合った場所、芸術に触れる聖地であってほしいと願う白井さん。今日も横浜から芸術を盛り上げる。

横浜はスマートな街

関西で生まれ育ち、大学から東京に来ました。大学の演劇仲間に横浜出身がいて、なんか小洒落ているというかスマートで、「～じゃん」という言葉がすごく印象的でした。学生時代、山下公園や神奈川県民ホールにジャズコンサートやコンテンポラリーダンスを観に来ていました。関内か桜木町から「遠いなぁ」と思いながら歩いていましたね。

2011年、KAAT神奈川芸術劇場が完成した時、宮本亜門さんの『金閣寺』を観に来ました。震災直後には三谷幸喜さんの『国民の映画』という作品に俳優として出演して。今、芸術監督になって週5回くらい来ています。稽古などでアイデアに詰まった時は山下公園に海を見に行きます。街並みが気持ちよく、精神的な部分も物理的な部分もそうですが、人との距離がスマートなんですよね。この場所は自分にとって特別な場所になりつつある。僕にとって、横浜＝アートなんです。

アングラ演劇への興味

父の影響で音楽や映画が大好きでした。中高生の時に火がついて、2本立てや3本立ての上映館を探して映画を観に行きました。ちょうど思春期に映画と出合い、この世界で何かやりたいと思ったのです。とりあえず京都の大学に進みましたが、映画館に置いてあったチラシに誘われ、異次元の世界に、異界の扉を開けるみたいな感じでアングラ演劇に吸い寄せられました。

京都大学の西部講堂という学生の自治会が運営している無法地帯に、いろんな劇団がやってくる。そこに通い、アングラ表現する連中に触れることで日々心が震えました。「でも自分は入れないな、こんな恐ろしそうな世界」と思っていました。

その時、早稲田大学演劇研究会の『お手をどうぞ』という作品に出会ったんです。4畳半一間に住んでいる男が、幻影を見てドン・キホーテになって、その夢の中に見た世界に入っていく、そんなへんてこりんな芝居。当時の自分の心を照らし合わせているようで「あの幻想の中に僕も入りたい」と思ってしまい、大学を辞めて東京へ。無事早稲田大学に合格し、入学手続きする前から演劇研究会の門を叩いて「入れてください」って(笑)。4年間、先輩や同期、後輩と飲んで話したり見たりしたことが今の財産というか、自分を作ったんじゃないかなと思います。そしてあの時に観た『お手をどうぞ』を追いかけているんです、いまだに。

サラリーマンと劇団員

80～90年代、小劇場が全盛の頃、4年生だった僕は「これを続ける才能ないや」と演劇を諦め、出遅れて就職活動を始め、広告代理店に入社。代理店には5年勤めました。キャッチコピーや番組の構成台本を書くにしても、やはり演劇の感覚がつながっていたような気がします。

一方で大学時代の仲間は細々と演劇を続けていました。休日に稽古場に行ってアドバイスしているうちに「じゃあちょっと手伝ってくれよ」と。再燃してしまいました。「他に仕事を持っていても甘えることなく、本気でやろう」と遊◉機械/全自動シアターという劇団を結成しました。

睡眠時間は毎日2～3時間、夜中まで稽古し議論する。次の日ボーッとして会社に行き、午前中は使い物にならない、そんな状態が続きました。週末のみの公演でしたが、人気が出て両立できなくなってきて。ある日、上司に呼び出されて「これお前じゃないの?」と。劇団の公演情報が、自分たちが扱っている広告媒体誌に載っちゃった。「昼間は広告マン、夜は演劇をやっている、人気の遊◉機械/全自動シアター代表の白井さん」って(笑)。社内では暗黙の了解でしたが、「もう30歳になるんだから、趣味はその辺にして」と言われ、「ハイ、頑張ります」と答えた3カ月後、海外出張の命令が。劇場を押さえた時期と重なってしまい「これでおしまいだ」と思って。「はっきりせい」と言われ、「はっきりします」と辞表を出しました。仲間は裏切れないので会社を裏切りました(笑)。若気の至りですよね。いろいろな方に支えられ、試行錯誤、自転車操業でなんとか20年やっていました。でも頑張っていたからこそ幸運にも巡り合えたのだと思います。

最終的に、劇団は組織に対しての甘えが出る気がして、個の力に戻したほうがいいと解体しました。

KAATでアートに触れてほしい

山下町にあるKAATという劇場をご存知ですか?いつも感じている日常にふと疑問を感じたり、生きていることを顧みる鏡のような場所として、ここが芸術に触れる聖地になってほしいんです。演劇のみならず、音楽も現代美術もダンスも、すべてこの劇場でやっていこうと思っているので、どんどんアートに触れるチャンスが増えると思います。

この秋、ここで『華氏451度』を上演します。原作はアメリカの作家レイ・ブラッドベリによって書かれたSF小説で、書物が必要なくなって燃やされるという近未来の話を描いたもの。今電車に乗っていて、ふと周りを見ると95%の人がスマートフォンを見ています。僕らはこれを信じて生きていますが、これが全部嘘だったら、自分たちで選んだ便利な手段によって自らを殺してしまうかもしれない。65年前に書かれた作品世界がまさに現実性をおびてきていると思うので、上演する意味がある。今僕たちがどこにいるのかを確認するためにもこの作品をぜひ観ていただけたら嬉しいです。

2018.
10.25〔木〕－28〔日〕
KAAT 神奈川芸術劇場〈ホール〉
日本大通り駅から徒歩5分

公演スケジュール(全6回)
10月25日(木)19時30分　27日(土)13時・18時
26日(金)13時・19時30分　28日(日)13時

チケット(全席指定・税込)

	一般	学生(高校生～大学院生)	こども(4歳～中学生)	シルバー(65歳以上)
S席	4,500円	2,000円	1,500円	4,000円
A席	3,500円	1,500円	1,000円	

お申込み
0570-015-415 チケットかながわ(10時～18時)
http://www.kaat.jp/(PC・携帯)

主催:KAAT神奈川芸術劇場
神奈川県
JAPAN - VIET NAM 1973 - 2018